

十和田市立 新渡戸記念館だより

収蔵資料紹介

資料名：鬼柳黒沢尻之図

サイズ：縦111.2×横78.5(cm)

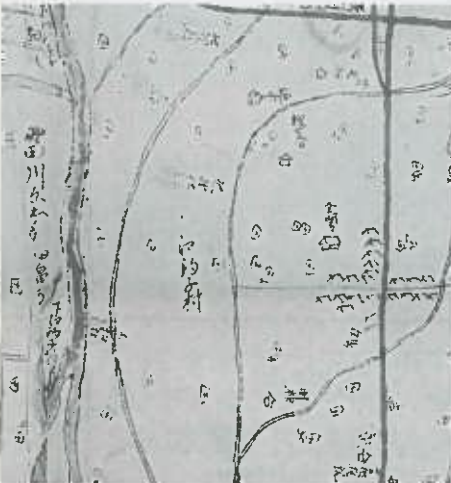
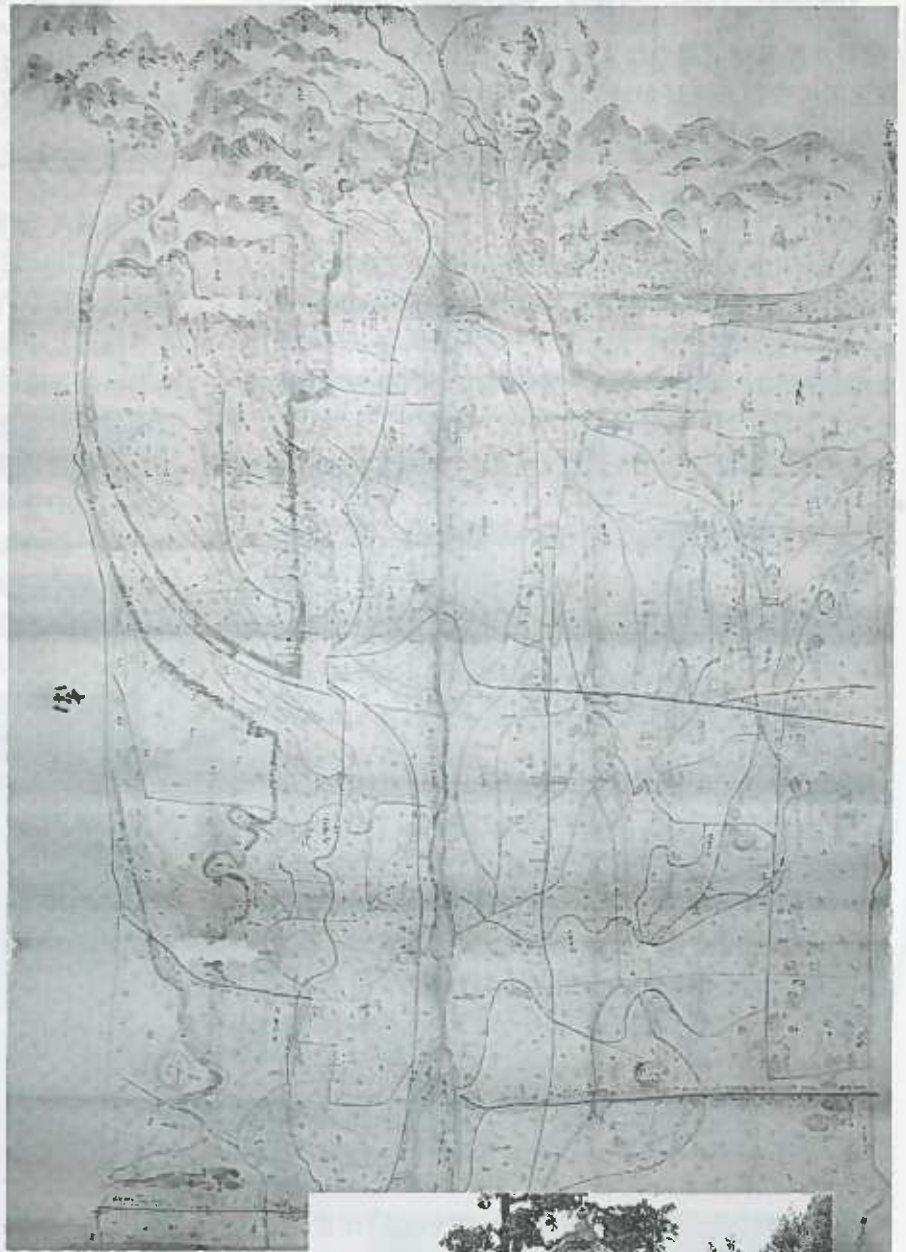
和賀川を中心に南部盛岡藩鬼柳通、黒沢尻通（現在の岩手県北上市西北部＝旧 和賀郡江釣子村周辺）が描かれています。この地域には新渡戸氏の知行地や新田があり、その縁から作成された絵図面と思われます。また、藩士・奥寺八左衛門により

7,000石の開田がなされた奥寺新田をはじめとして、17世紀後半に開墾が盛んに行われた地域であり、それによる用水路や堤の詳細が描かれています。

鬼柳黒沢尻之図

常訓

◀絵図面の裏に残された「常訓」の署名から新渡戸十次郎が残した資料であることが分かります



◀絵図面中央には新渡戸氏の古くからの知行地があった江釣子村が記載されています。「観世音」とあるのは新渡戸氏ゆかりの「新渡戸観音堂」と思われます



◀江釣子の新渡戸観音堂

2006年

元朝参りは太素塚へどうぞ!!

★甘酒&お神酒サービスあり★
12月31日(土)22:00~元旦(日)1:30

上位で当確か！ そすい 稲生川が「疏水百選」候補に

農林水産省が“見つけよう！あなたの疏水”として現在全国に投票を呼びかけている「疏水百選」の候補に稲生川が選定されました。

疏水百選とは

農林水産省農村整備局では、日本の美しく豊かな“水・土・里”の育成と維持を考え、特に農業用水を対象に「疏水百選」を実施しています。同省では本年6月から“あなたが選ぶ疏水百選”として募集を開始、全国の疏水を管理する団体等、関係機関に呼びかけるとともに、インターネット等を通じて全国民から広く募集し、約500カ所

の応募がありました。選考基準は「①農業や地域の振興への寄与 ②歴史的、文化的、伝統的な価値 ③環境の保全状況や景観の美しさ ④地域コミュニティ形成」の4つがあげられ、有識者からなる選定委員会の審査とファックスやはがき、インターネットによる全国投票で来年1月末に「疏水百選」が決定する予定です。

インターネット投票で目下2位に

1次選考で284カ所の候補に絞り込みが行われましたが、稲生川は岩木川右岸用水、土淵堰とともに青森県の候補地としてノミネートされています。疏水百選のホームページ上のインターネット投票では、12月8日時点で稲生川が2位にランキングされています。

★疏水百選ホームページ

<http://www.inakajin.or.jp/sosui/>

◆ みのお 大阪府箕面市から深持小学校時代の友人と久しぶりに来ました。三本木原開拓についての卒論を書き終えて再び見ましたが、三本木原開拓の大切さを感じました。これからの記念館の発展をお祈りします。
 (平成16年6月12日/箕面市 T・Nさん)

として、この人生をまっとうしたく、決意をここ十和田市立新渡戸記念館で新たにした次第です。素晴らしい先人の生き様を垣間見させて頂き、本当に有難うございました。
 (平成17年7月12日/Y・Nさん)

♥ 今まで新渡戸稲造の名前くらいしか知らなかったのですが、新渡戸稲造の事だけでなく、新渡戸家が十和田を住みよい土地にするために一生をささげたり、身近な場所に昔、これ程凄い人達が沢山いたという事を知ることができました。こういった人々を尊敬し、感謝しながら、私達もよりよい町や国にするように努力しなければと思います。
 (平成17年6月4日/三本木中学校3年 Yさん)

◆ 13日の晩フェリーで苫小牧から八戸に来ました。14日早朝5時前この記念館の前に着きましたが開いているわけではなく、写真を撮って今日帰る前に中に入ることができました。尊敬する新渡戸稲造さんの直筆の書がこんなにいっぱい展示されているのに驚き、稲造さんの思いを感じて、胸がいっぱいになりました。札幌には遠友夜学校の跡地に建った勤労青少年ホームの中に新渡戸稲造記念室があります。そこには英文の直筆の書があり、日本語では「何人にも悪意を抱かず、すべての人に愛をもって」という意味の言葉が

平成16年～17年 館内感想ノートから

来館者からよせられた感想の一部をご紹介します

♣ 僕は今、自転車て日本を一周しています。米国の大学にて学んでおり、休学して、自分が生まれ育ったこの日本という国を知ること、自分を知られたいと思ったからです。そしてこの新渡戸記念館に立ち寄ったのは、僕の夢が稲造博士と似通っているという理由から、以前よりとても強く関心を持っていたからです。いつかは国際連合環境計画で働き、現代の物質・利潤第一の社会から環境という人間を含めた自然サイクルの中での持続可能な経済社会への変換をはかりたいと思っています。戦争をなくそうとして戦争は無くならず、犯罪をなくそうとして犯罪はなくなる。全ては自然との隔絶から生まれた問題だと確信しています。傅氏、十次郎氏が築きあげてきた十和田。ひいては日本を旅し、稲造氏がかけた太平洋の橋を渡り、異国アメリカの地で多くを学び、世界を駆け、自分も人に奉仕することを第一

書かれています。夜学校の精神であるリンカーンの言葉だそうです。札幌にいらっしゃることがありましたらぜひ、お立ち寄りください。ありがとうございました。
 (平成17年7月18日/札幌市 K・Wさん)

♥ 東京から帰省のため、十和田市に来ました。ここには前も一度来たことがあって、なつかしく思い、再度来ました。新渡戸さんで思いうかぶことはやはり五千円札のことですが、館内見学をして、十和田市をつくりあげたということも分かりました。今回で二度目でしたが、新渡戸さんについての知識がよりくわしく知ることができました。また、来年も機会があったら来たいと思います。今日は本当にありがとうございました。今日知ったことを今後の生活にいかしていきたいと思えます。(平成17年8月18日/東京都 中学2年生 Aさん)

レポート 東北電カグリーンプラザ主催

新渡戸稲造の武士道展

平成17年10月12日(水)～10月29日(土)に東北電力グリーンプラザ主催の特別展「新渡戸稲造の武士道展—世界を駆けた日本の心—」が仙台市で開催されました。新渡戸稲造の『武士道』にスポットを当て、そこに描かれた日本人の倫理観を紹介することで現代に再びその価値を問うとともに、新渡戸稲造の思想を形作った故郷・東北のすばらしい風土を再認識してもらうことを目的に企画されたこの特別展には、当館はじめ、新渡戸稲造生誕の地である盛岡市の盛岡市先人記念館や、十和田市とも新渡戸友好都市となっている稲造ゆかりの地・花巻市の花巻新渡戸記念館などから多数の資料が一堂に集められました。

当館からは新渡戸稲造直筆のドイツ語の書「Eile nicht, Weile nicht.」(いそがず とまらず) や愛用のカバン、ステッキ等の資料12点を貸出しするとともに、「今に生きる武士道」コーナーに当館館長が寄稿し、三本木原開拓と新渡戸稲造の関わりをパネルで紹介しました。



◀ 展示室入口



◀ 当館所蔵の新渡戸稲造直筆ドイツ語の書が展示された「新渡戸稲造の生涯と活躍」コーナー。使用パネルの一部は当館にいただきました

魂の原点

館長寄稿文

十和田市立新渡戸記念館

館長 新渡戸 明

この度「新渡戸稲造の武士道～世界を駆けた日本の心～」展が開催されますことは誠に有意義な事と存じます。

十和田市立新渡戸記念館は、大正14年に新渡戸稲造博士の蔵書のうち「和書・漢籍」が贈られ、稲造博士と従兄弟の新渡戸 訓・太田常利とで「私設新渡戸文庫」が設立され、この完成により昭和16年5月の三本木大火から貴重な資料が守られました。昭和40年に現在の記念館となっています。

三本木原開拓は幕末期稲造の祖父新渡戸 傳・父十次郎・兄七郎の三代に亘り不毛の原野を人工河川「稲生川」開削により緑の沃野に変え、さらに十次郎の計画による十二町四方基盤の目状の街づくりと産業開発によって、現在では69,000余名を有する十和田市に発展しております。

新渡戸稲造博士は父祖の三本木原開拓の事業を尊敬の念で見詰め、地域に住み土と共に暮らす農業に生きる人々との共存共栄の理念で行った総合開発に強い感銘を受けたと思われまふ。「知識より常識」「学問より実行」を標榜した稲造博士の魂と、日本人の心を世界に紹介した名著『武士道』の原点に感じられてなりません。

ご来場の皆様も是非一度十和田市において頂きたいと存じます。

トピックス 彫刻家・小柳 ^{つとむ}カさん 木彫「けんけん」を館長へ寄贈

小柳 カさんは秋田市出身ですが、昭和26年頃、ご尊父が十和田税務署総務課長として勤務中三本木小学校に在学し、小学校の校庭にある二宮金次郎像を見ながら、彫刻家の夢を育てていたとのことです。館長とはその頃から友人であり、その縁で木彫像の寄贈を受けたものです。館長は市民の皆様に見ていただきたいとして、当分の間当館エントランスに展示することにしました。



▲ エントランスに展示された木彫「けんけん」と小柳さんご夫妻。奥様の葵さんも彫刻家です。小柳さんは太宰塚にある新渡戸三代の銅像制作者・小坂圭二さんと同じ新制作協会に所属しています

ありがとうございました

●市内在住の菊愛好家・瀬川安雄さん、杉山豊美さん、大久保孜さんから10月～11月にかけて菊の鉢植9鉢を記念館入口に出品していただきました。



●太素塚近くに住む石川原光雄さんに本年も一年を通して太素塚の美化ボランティアとして活動いただきました。石川原さんは以前から毎日のように太素塚を見回り、清掃作業や植物の手入れ等をして下さっています。



▲ボランティアの石川原さん

関連情報

◆太素塚清掃奉仕

9月20日(火) 大学通り老成会 様
 10月2日(日)・11月6日(日) 本瀬戸山老成会 様
 11月20日(日) 十和田稲生ライオンズクラブ 様
 ありがとうございました

◆平成17年7月1日(金)～11月30日(水)の来館小学校
 <十和田市>西小学校・ちとせ小学校・松陽小学校・三本木小学校・藤坂小学校・北園小学校・南小学校・法奥小学校<八戸市>高館小学校・八戸小学校・下長小学校・町畑小学校・根岸小学校・柏崎小学校・白銀南小学校・城下小学校・中居林小学校<三沢市>古間木小学校<六戸町>大曲小学校・折茂小学校・開知小学校<七戸町>七戸小学校<五戸町>五戸南小学校・五戸小学校・切谷内小学校<東北町>蛭沢小学校・第一小学校<下田町>木下小学校<名川町>名久井小学校<野辺地町>馬門小学校

◆「広報とわだ」で水野陳好特集

11月1日号の十和田市民広報「広報とわだ」で明治時代から戦前までの三本木原開拓を担った故水野陳好氏について、巻頭から6ページにわたる特集で紹介しました。

<編集後記>

農水省農村振興局主催の疏水百選の投票が行われており、稲生川用水も上位を維持しています。市民多数の参加協力があったことと思います。これからも「市民とともに創る博物館」を目指して努力したいと思います。どうぞ良いお年をお迎え下さい。

また、この特集記事に対して、当館館長が「後継者に恵まれた開拓」と題して寄稿しました。

◆太素顕彰会刊行「稲生川・水の旅路」好評

新渡戸傳翁命日である9月27日(火)に太素顕彰会より刊行した冊子『稲生川・水の旅路』が三本木原開拓を総合的に分かりやすく紹介した書籍として好評を集め、新聞等で紹介されています。冊子の購入を希望される方は当館までどうぞ。

◆新渡戸記念館内のアスベストについて“問題なし”との調査結果

十和田市による市内公共施設のアスベスト(石綿)使用状況調査で、当館でも吹き付けアスベストが使用された可能性があることされ、9月末に詳しい成分分析が行われました。その結果、壁面や天井の吹き付け剤からアスベストが検出されたものの、基準値以下であり、さらに平成10年の改装工事で展示室内の壁面、天井はすべて再塗装されており、アスベストが飛び散る心配はないことが分かりました。なお、一般の立ち入りのない書庫については、来年度封じ込め作業を行い安全を確保することとしています。

活動報告

◆館長講演会

11月29日(火) 平成17年度青森県高等学校教頭会二北支部第二回総会・秋季研修会(まかど温泉富士屋ホテル/演題:三本木原開拓と新渡戸三代)

◆日本博物館協会東北支部大会、第53回全国博物館大会に館長出席

9月29～30日に秋田県大館市で開催の日博協東北支部大会、11月17～18日東京で開催の第53回全国博物館大会に館長が出席しました。江戸東京博物館で行われた全国



博物館大会では「市民とともに創る博物館」をテーマに活発な議論が交わされました。

◆東北電力グリーンプラザ主催「新渡戸稲造の武士道展」へ当館資料を貸出し(詳細3面)

発行 太素顕彰会
 十和田市立新渡戸記念館
 〒034-0031 青森県十和田市東三番町24-1
 TEL (FAX) 0176-23-4430
 E-mail: nitobemm@hi-net.ne.jp
 http://www.towada.or.jp/nitobe/
 印刷 株式会社 岩間印刷